

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 13 日現在

機関番号：12101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520605

研究課題名(和文)多読多聴授業の生涯学習への応用 高等教育の教室を飛び出して地域貢献へ

研究課題名(英文)Extensive Reading and Listening - Stepping Out Of Classroom

研究代表者

上田 敦子 (Ueda, Atsuko)

茨城大学・大学教育センター・准教授

研究者番号：30396593

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：水戸市とその周辺で「多読/多聴」を学習する社会人の状況を知り、学習をすすめる上での社会人ならではのポイントについて分析した。

(1)社会人多読学習者で成功するタイプは、ミステリなど量のあるものを読むことに主眼を置くタイプと、児童書を楽しみながら読書量を増やすタイプがいるようだ。(2)デジタルブックスなどのコンテンツ、デジタルデバイスは、想像していたほど利用されていない。また、多読学習をするのはむしろ紙の本を楽しむ層である。(3)社会人多読学習者は積極的に図書館を活用していた。デジタルコンテンツの利用方法を勧めるよりも、地域の利用可能な図書館の詳しい情報を提供するほうがより有益であるようだ。

研究成果の概要(英文)：The researchers analyzed the adult extensive readers in Mito area. Those adult extensive readers have some tendencies: 1)There are two types of successful readers. One of them are mystery lovers, and another group loves children's books. (2)Contrary to researchers' expectations, the adult extensive readers don't make much use of digital books or digital reading devices. (3)The adult extensive readers rather love being in libraries and reading REAL books.

研究分野：外国語教育

キーワード：多読 多聴 生涯学習

1. 研究開始当初の背景

- (1) 研究代表者は茨城県水戸市にある茨城大学・および常磐大学にて多読/多聴を中心とする指導法について研究し、また、授業を行ってきた。

8年以上にわたり行なっていたこれらの授業方法の研究は、100万語以上を読む学生が出る、TOEIC等の得点が上がった、など、一定の成果を出すことができていた。

指導法のノウハウも蓄積できてきたし、また、研究者同士の情報交換も頻繁に行える状況があった。

結果としてこの2大学の図書館では、多読/多聴用の図書が多く揃えられるようになり、幅広い英語レベルの層が自由に多読本を選べる環境も整ってきた。

- (2) 社会人学生の増加により、多読/多聴の学習方法の普及を行うことが求められていると強く感ずるようになった。

研究代表者(上田)は、茨城大学及び常磐大学で授業をおこなっていたが、社会人の学生が聴講生として参加することが多くなってきた。

特に茨城大学での授業に関しては、聴講生の枠が応募受付を開始するとすぐに埋まる状況が続いていた(現在も同様である)。

研究代表者は放送大学でも授業を担当することとなり、18~20代前半の学生以外の学生と接するチャンスが増えた。

2. 研究の目的

1.で述べたように、水戸地区においても、社会人からの多読学習のニーズの高まりはあるようだ。そこで、現在大学の授業で行っている多読授業をどのように再構築したら社会人の方にも学習してもらいやすくなるかを調べ、彼らの多読行動を知り、より普及しやすきたい、というのが本研究の目的である。

このことにより、水戸地区及びその周辺の地域に貢献する。

- (1) 社会人にとって魅力的なコンテンツ(多読図書等)を知る
- (2) 現在普及しつつあるデジタル・デバイスの活用状況を知る
- iPad, Kindleなどを実際に試してもらい、その使い勝手を確認する。
- シャドーイングにおいても、CDプレーヤーとMP3プレーヤーの使い比べなどを確認する

- (3) 図書館利用について

図書館を利用することは安価ではあるが、時間・場所に制約される。忙しい社会人の場合、図書館利用を勧めてよいのだろうか。

上記(2)とも関連するが、収入のある社会人の場合、自前で学習素材を購入する層もあるはずだ。どういう条件であれば本を買い、または借りるのだろうか。

- (4) 可能であれば社会人多読学習者の学習スタイルやストラテジーについても調査し、多読を楽しみ、また学びたいと思っている社会人にはどのような傾向があるか(ある特定の層なのかどうか)を知りたい。

3. 研究の方法

本研究においては、実際に多読を学習してみてどうなのか、という生の声に耳を傾けることが大切と考えた。すなわち、

- (1) 他の学習の機関や場所で、社会人が多読を通して学習する場合の事例を知る(海外での事例など)
- (2) 多数の本やCD、デジタルブックスなどを実際に多読学習をしている場で試してもらった上で、インタビュー調査するの、2種類の手法を使う。

4. 研究成果

- (1) 社会人学習者の傾向

外部英語力テスト等はいづらいため、一部の学習者の方には多読の簡単な本を読んでその読解に関する質問と読書スピードを測る、などの形で協力していただいた。また日々の多読の様子(どのような本を選択するか)からも判断すると、我々の社会人学習者は、英語力的にはかなり幅が広いことが伺えた。

大きく分けると、a. 仕事である程度英語に馴染みがあるかその経験が過去にあり、読むことに自信があるグループと、b. 特に英語力に自信があるわけではないが、本を読むのが楽しい、特に児童書を読むのが楽しいと思っているグループである。

a. の傾向の社会人学習者で代表的なAさんの事例:

最初のうちは他の一般大学生に混じってかんたんな児童書をCD付きで読んでいたが、読み方のコツを掴んできた様子で、途中から長めのCDつきGraded Reader(マクミラン)を選択するようになった。GRでグリシャムを読み、細かい部分が記述されていないのが少々残念

であるとのことだった。以前ペーパーバックは買ったものの読みきれなかった過去があったそうだが、2ヶ月ほど簡単な本をたっぶり読んだ後だったので、手持ちのグリシャムの原書(ペーパーバック)をお貸ししてみた。結果は「少し大変でしたし、難しいところは飛ばしながら読んだので詳しくはわからなかったかもしれませんが、楽しく読めました」とのこと。その後も自分でペーパーバックを購入し、授業内外で読み進めていた。Aさんは授業内でのその他の活動(ブックトーク、読み聞かせ)なども積極的に参加され、一緒に授業を受けていた一般大学生にもよい影響を及ぼしていたのが印象的だった。

a タイプの学習者は、一般大学生では英語力は高くても背伸びしすぎて息切れしてしまうこともたびたびあるのだが、焦らずマイペースで上手に時間を使い、疲れたら簡単な教材も楽しんでいるAさんの姿に、周りも担当者自身も学ぶことが多かった。このようにモチベーションを持続できるのは、社会経験も十分に積んだ社会人ならではのようである。

b. の傾向の社会人学習者で代表的なBさんの事例：

Bさんは、多読学習を経験してみたいと常々思っていたそうだ。英語はそんなに自信がない、わからない、と言いつつも、簡単な絵本や児童書ばかりを読み進めて半年弱で120万語以上を読破した。茨城大学図書館に通いやすい環境だったことが大きくプラスに働いた。読書はもともと好きではあった、と語るBさんだったが、お話を聞いてみると、英語の児童書を読むことを心から楽しみ、味わっていたのがよく伝わってきた。とても豊かな時間が持てたと思います、と語っていたのが印象的だった。なお、Bさんはあきらかに読む本のレベルが上がっており、授業終了時の読解力テストでも高得点であった。多読開始前に比べ、読む速さ、読解力が向上している。

(2)多読のコンテンツについて

上記(1)でのaタイプでは大人向けのミステリ、bタイプでは内容の濃い児童書と、大きく読む本に違いがある。ガイド役の教員は、どちらのコンテンツについてもある程度は詳しく対応できるほうがいいだろう。また、どちらのタイプも、最初の1~2ヶ月は「簡単な本をたくさん」の原則は押さえておくことが肝要であるように思う。英語力に自信のある方も、理由をしっかりと伝えて納得し

ていただくことが、特に単位などの制約もなにもない社会人の方の場合大切である。

学習意欲のない社会人学習者に多読授業を提供して成功した事例を聞くためにTESOL2014(アメリカ)に参加した。授業の内容や手法などについては残念ながら特に目新しいことはなかった。しかし英語圏での素材選びについては印象深いエピソードが聞け、ためになった。英語圏では、児童書を多読素材として勧めることはNGに近いようだった。SL(第二言語)として英語を学ぶ学習者たちは、ただでさえESLのクラスに入っていること(=弱み)を知られたくないものも多く、その中であえて児童書を読ませることはできないとのことだった。同じように多読を扱っていても、彼我では学習者と教員の意識に大きな隔たりがあることを知った。上記(1)のbタイプの学習者(児童書を楽しむ)は研究代表者のクラスでは社会人にも一般大学生にも比較的多く、熱心に読む層であるが、英語圏ではかなり珍しいことのようにである。

(3)多読教材を提供するデバイスについて

iPadにデジタルブックを入れたものを見せ、使っていただくようなこともしたが、あまり興味は持ってもらえなかった。インタビューしてみると、「(紙の)本を読む」「ページをめくる」ことの楽しさや、本を手にしたときの厚みや、印刷や、装丁など、素材感について語る方が想像以上に多かった。むしろ「紙の本を読む」ことを楽しみたいからこそ、多読の時間を持とうとしている印象を受けた。

社会人学生には加齢によるハンディがある場合もある。デジタルデバイスの使いやすさの理由のひとつは文字のサイズを簡単に自分仕様にできるところであり、視力にトラブルを抱えた高齢層には大きな利点となると想像していたのだが、そういったポイントは「紙の本の魅力」にまだ勝ってはいなかった。

ある程度収入がある層で英語の本の手に入れやすさを考えると、デジタルデバイスはもう少し市民権があるかと想像していたが、多読を楽しみに来る人達とはクラスタが違うのかもしれない。この点については、年齢層などによっても違いがあるのか、現在過渡期だからなのか。今後も世の中の動きに注視していきたい。

(4) 図書館利用について

上記(3)とも関連するが、一般学生に比べ、収入に余裕のある社会人多読学習者はより英語の本を購入する傾向があるかと思っただが、そうでもないようだ。デジタルブックスは自分で購入するしがなく、図書館で本を借りるほうが、手軽と感じられているようだった。

むしろどの図書館にどんな本があるか、といった情報は、社会人学習者にとって有益なものだったようだ。そこで、今後は近隣の地域の図書館を調べて情報を発信するつもりである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3件)

上田敦子、『**多読授業における評価方法の検討**』、**授業の達成感を評価につなげる工夫**』、茨城大学大学教育センター紀要、第5号、pp.65-73,2015、査読有

中西貴行、『**英語多読研究における傾向と方向性**』、常磐大学人間科学部紀要 人間科学、第31巻2号、pp.79-83,2014、査読無

Nakanishi Takayuki "A meta-analysis of extensive reading research", TESOL Quarterly, 49(1), pp.6-37,2014、査読有

[学会発表](計 4件)

Atsuko Ueda, Takayuki Nakanishi, "Do Students' Learning Styles Influence their ER?", The Third World Congress on Extensive Reading, 2015.09.19 - 20, Dubai, United Arab Emirates

Atsuko Ueda, Takayuki Nakanishi, "The Relationship Between Test Items and Students' Reading Part 2", Asia TEFL 2014 conference, 2014.08.28 - 30, Borneo Convention Centre Kuching, Sarawak, Malaysia

Takayuki Nakanishi, "Investigation of Relationship Between Test Items and Students' Reading Levels", Cam TESOL, 2014.02.22 - 02.23, Phnom Penh, Cambodia

Atsuko Ueda, Takayuki Nakanishi,

"Reading habits and attitudes of university students in Japan", Asia TEFL 2012 conference, 2012.10.04 - 10.06, Delhi, India

[その他]

ホームページ等(現在準備中)

Let's Start Happy Reading!

<http://www.tadoku.cue.ibaraki.ac.jp>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

上田 敦子 (UEDA ATSUKO)

茨城大学・大学教育センター・准教授

研究者番号: 30396593

(2) 研究分担者

中西 貴行 (NAKANISHI TAKAYUKI)

獨協大学・経済学部・准教授

研究者番号: 10406019

(3) 連携研究者

無し

(4) 研究協力者

無し